

インターバンクの声（2015 年 9 月 2 日）

8 月最後の週末を前に、中国経済の減速に対する懸念もひとまず収まっていたように見えたが、昨日発表された中国製造業 PMI が 3 年ぶりの低水準に落ち込み、市場の不安感が改めて膨らんで来ているようだ。欧米市場に比べると、中国経済の先行きには多少なりとも楽観視しているように見えた日本市場も、昨日の日経平均の下落幅からは相当に警戒感が強まっていることが窺える。これまで上海株よりも下げ幅が大きくなることが少なかった日本株だが、昨日が特別だったのかは解らないが、とにかく明日から連休に入る上海株が今日どういう終わり方をするのかも注目だ。ここで中国当局が動かなければ、当分市場のリスク回避の動きが弱まることはなさそうだ。116 円台にまで下げたドル円相場も、121 円台中盤にまで戻せばそう簡単に 120 円割れがあるとは思えなかったが、むしろ 120 円の上値が重く感じられるから不思議だ。先週末頃は、これで再び 120~125 円レンジの相場に戻ってきたと自信を持って語っていた人達までもがドル円の下落見通しに変わっている。多数派の見方が相場を支えるのも事実だが、ドル売りに向かうのはもう少し我慢してみたい。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。